

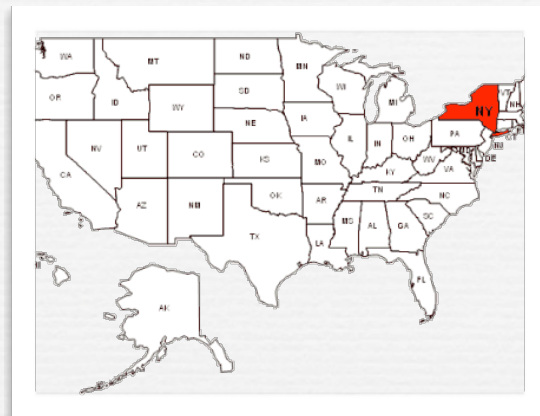
RIT・NTIDにおける 取り組みの紹介

ロチェスター工科大学・国立聾工科大学

Rochester Institute of Technology
National Technical Institute for the Deaf

吉田稔

ロチェスター市



- ❧ オンタリオ湖のほとりに位置した町
- ❧ エリー運河の開通に伴い、重工業が発達
- ❧ 全米屈指のろう者の人口密度のため、ろう者に対するサービスが充実している町
- ❧ 印刷のゼロックス、コンタクトレンズのボシュロムの発祥地



RIT と NTID

- ☞ Rochester Institute of Technology
(ロチェスター工科大学)
- ☞ 1829年創立 私立
- ☞ National Technical Institute for the Deaf
(国立聾工科大学)
- ☞ 1965年創立 国立



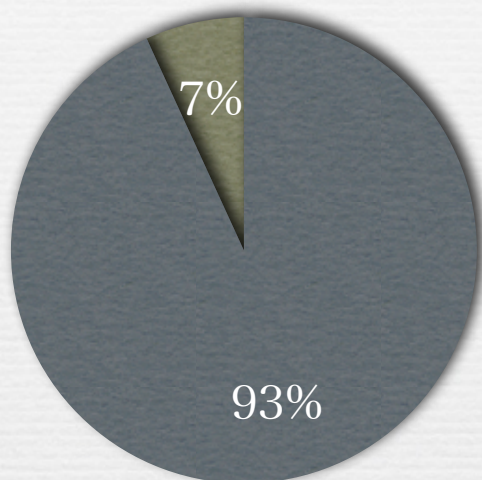
空から見たRIT・NTIDキャンパス



NTID

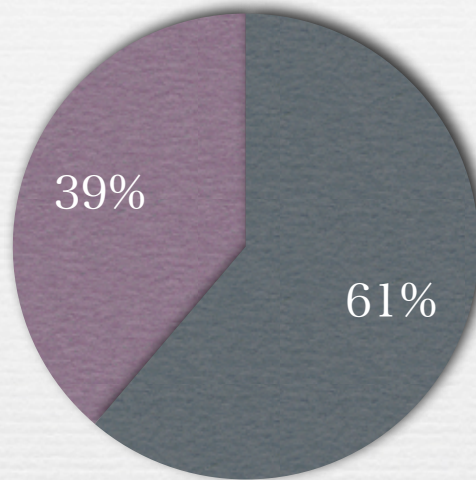
ロチェスター工科大学・国立聾工科大学の概要

(1) 学生全体の割合



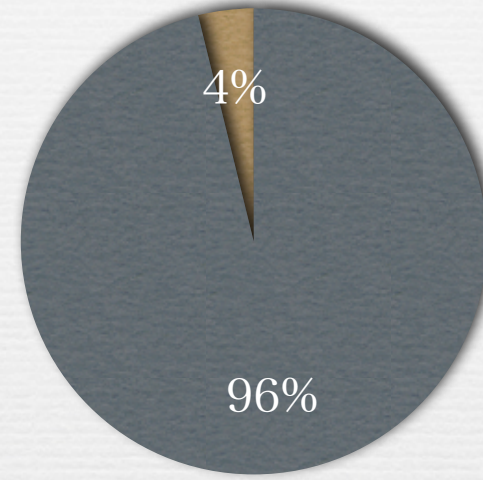
● 聴者
● 聴覚障害者

(2) 在籍プログラム



● NTID
● RIT

(3) 国内・国際学生の割合



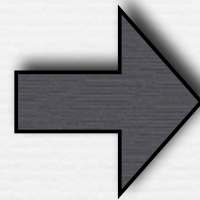
● 国内 (米国)
● 国際 (米国外)

- (1) ロチェスター工科大学学生総数 15557人 聴覚障害学生の学生総数 1066人
(2) 聴覚障害学生の在籍プログラム RIT 484人 NTID 766人
(3) 聴覚障害学生 (国内・国際) の割合 国内学生 1202人 国際学生 48人

学生を取り巻く環境の変化

IDEA（個別障害者教育法）
リハビリテーション法504条の施行

ADA（アメリカ障害者法）の施行



情報保障に慣れた
学生の増加

その傍ら

人工内耳を装用した学生の増加
英語を母国語としない学生の増加
重複障害を持つ学生の増加



学生の多様化
学力の二極化

RIT・NTIDでの取り組み

大学による公的支援の一環	学生のエンパワーメント活動の一環
・新入生オリエンテーション (SVP) ・新入生研修ガイダンス (FYE) ・教員チューター制度 (Prof. Tutoring) ・メンター制度 (Mentor) ・カウンセリング (Counseling) ・個別相談 (Advising) ・進路決定 (Career Expl. Studies) ・学生生活支援チーム (SLT) ・薬物・アルコール中毒者支援 (SAISD)	・クラブ、スポーツ活動を通して仲間作り ・学生 (ピア) による英語チューター制度 ・マイノリティ学生による団体活動 ・人工内耳の学生によるサポートグループ ・NTID独自の学生会運営 (NSC) ・大学学生寮の寮長 (Resident Advisor) ・地域でのボランティア奉仕活動 ・様々な問題討論会の開催 (DSLAGE)
→自分自身のニーズを発見し、自ら問題解決する能力を養うことを目的	→公的支援の元、自発的な活動を通してリーダーシップ力を養うことを目的

公的支援とエンパワメント活動の成果

- 公的支援を通して、聴覚障害学生が少しでも自信をつけられるようにする
- エンパワメント活動を通して、学生が問題意識を持ちながら自発的に活動出来るようにする。
- その結果、学生自身が自ら率先して、問題解決に取り組める能力が向上する



- ❧ RITにアメリカ大学史上初ろう学生会長の誕生（昨年度）
- ❧ 聴者学生よりも高い卒業率を維持
 - ❧ （聴覚障害学生：70% 聴者：64%）
- ❧ 卒業直後の就職決定率：95% （昨年度）

自らの経験

- ❧ **(入学時) 国際学生としてさまざまな壁にぶつかる**
言葉の壁や文化の壁にぶつかり、外国人としての新たなバリアに直面する。自らの新たなニーズを認識する。
- ❧ **(大学二年) ピア英語チューターとしてさまざまな学生とかかわる**
国際学生だけでなく、アメリカ人の学生が抱えている悩みや現状を目の辺りにして、自らのニーズと共に聴覚障害学生が抱えているニーズを再認識する。
- ❧ **(大学三年) 国際学生団体の設立、英語問題研究委員会の委員長として問題提起**
国際学生同士の連帯を高めながら、教職員や学生の啓発に取り組む。聴覚障害学生共通の問題である英語に関する問題の研究会の委員長として、自ら提案書作成に携わり管理職に現状の向上を求める。これらの活動を通して、積極的に問題解決に働きかける力を身につける。
- ❧ **(大学四年) 教職員の意識改善のための、パネルディスカッションの開催**
教員研修 (FD)の一環として、国際学生の特殊な問題に関して具体的な事例について学ぶ機会を作る。現場で学生と毎日関わっている教職員と横のつながりを持ち、信頼関係を築いていく。政治的なつながりや制度にどのような影響を与えていけるかを学ぶ。
- ❧ **(卒業後) NTID職員として、学生を支援する立場に回る**
卒業後、NTIDの職員に採用される。採用後、職員として学生を支援する立場に回り、学生の公的支援やアドボカシー活動を支援している。

日米の学生に関する考察

(米国)

- ・✂ 情報保障を受け慣れていて、自ら情報保障制度の改善に取り組む姿勢が希薄
- ・✂ 情報保障を受ける場合、本人の自己主張、自己決定が尊重される
- ・✂ 情報保障制度が成熟した結果、学生の自主性が疎かになってしまっている

(日本)

- ・✂ 多くの学生が大学入学後、初めて情報保障を経験する
- ・✂ 情報保障制度や技術のレベルを改善しようとする向上心が高い
- ・✂ 発展途上であるが、質の高い情報保障制度を築ける可能性が高い
- ・✂ 米国の失敗点と問題点を分析し反映することで、質の高い情報保障制度を築ける可能性が高い